産業獣医師 なり手不足

牛や馬などを診察する産業動物獣医師のなり手不足が深刻だ。県内で採用している県庁と県農業共済組合では、ともに最低限必要として定める人数を下回っている。背景には、獣医師免許の取得者が就職先に動物病院を選ぶ傾向が強いこともある。県は、高校生向けの独自の修学資金制度を周知するなどして人材の確保に努めている。（広瀬慶馬）

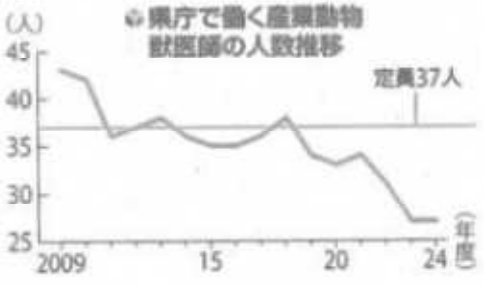
就職先 動物病院が人気

大仙市で8月、産業動物獣医師の仕事を体験できる県主催のイベントが開かれ、獣医師に興味を持つ高校生10人が牛の健康診断や血液検査を体験した。大館鳳鳴高3年の　さん(18)は「実際に仕事を見ることで、改めて獣医師になりたいと思った。ゆくゆくは秋田で働きたい」と話した。

牛の妊娠検査の方法を教える獣医師（中央）（8月、大仙市で）

イベントでは、高校生向けの修学資金制度の説明も行われた。県で働くことなどを条件に、修学資金の返還が免除される。利用者は創設された2018年度から毎年1、2人で推移し、由利本荘市から高校1年の娘と参加した母親は「こうした制度があるのは知らなかった。利用できれば助かる」と話した。

県の産業動物獣医師職員は4月時点で27人で、定員の37人を10人下回っている。このうち6人は定年後に再雇用の形で残っている職員で、県畜産振興課の千葉　主任は「このまま職員が減ると、検査体制を維持できなくなり、伝染病が流行した時の対処が遅れる恐れがある」と語る。



産業動物獣医師　家畜を診察する獣医師の総称。県の獣医師職員は、家畜保健衛生所や食肉衛生検査所などに勤務する。県農業共済組合では、組合が運営する家畜診療所で牛や豚などを診察する。

産業動物獣医師のなり手が少ない背景には、動物病院が就職先として人気が高いこともある。農林水産省の資料(22年12月末)によると、全国の免許取得者のうち、動物病院などで小動物診療に当たる人の割合は40・9％で、産業動物診療は9・7％となっている。

県農業共済組合でも、獣医師の数は必要な人数より2人少ない12人。県の獣医師と人材を取り合う形となり、課題となっている。

同組合家畜診療部の伊藤　部長は「この仕事がなくなれば畜産が成り立たなくなる。県とうまく連携しつつ、すみ分ける道を探っている」と話す。

県 修学資金制度で人材獲得へ

食の安全に直結 やりがい

産業動物獣医師として、県中央家畜保健衛生所（秋田市寺内蛭根）で家畜を伝染病から守る業務に就いている技師の中村　さん　＝写真＝は、「人の食の安全にも直結する仕事で、とてもやりがいを感じる」と話す。

中村さんは地元の小坂町で祖父母が牛を飼っていたことから、幼いころからなじみ深かった獣医師を志すようになった。当時は県の高校生向けの修学資金制度はなかったため、大学時代に学生向けの修学資金制度を利用。「学費はとても高額なので助かった」と振り返った。

現在は、牛のウイルス検査などを行う病性鑑定チームに所属している。「家畜の伝染病は感染が拡大しやすい。日々の地道な検査が大事だ」と話す。

産業動物獣医師は「人々の食の安全を担う、縁の下の力持ちだと思っている」とも語る中村さん。産業動物獣医師を目指す高校生に向けては、「高校から進路を決めるのは少し重いかもしれないが、しっかりと気持ちを固めてもらい、秋田の食を支えるため一緒に働いてほしい」と話した。

◇

県は、高校生向けの修学資金を受ける獣医師修学生を13日まで募集している。支給額は①「入学前」は上限175万円②「入学後」は私立大が月額18万円、国公立大が同10万円が6年間。問い合わせは県畜産振興課（018・860・1808）。